

学生防災士による地域連携を踏まえた防災・減災力 向上を目指した活動

広島工業大学学生防災士団体

1 企画概要

本企画を通じて、防災士の資格を取得した、あるいは、資格を志す広島工業大学の学生の有志による自主防災団体を結成し、地域貢献を軸に地域の住民と防災意識と知識を共有する活動を大学周辺の地域で行うことで、地域の地域防災・減災力を向上させることを目的としている。

災害時の生存率を上げていくためには、“地域防災・減災力”が重要であり、住民一人ひとりが、防災・減災に対処する知識や技能を身につけて、災害時に備えることが必要である。そして万が一、災害に遭った時には、地域で協力して被災した人を救助したり、火災の初期消火に努めたりしながら地域の被害を最小限に食い止める。そうした地域防災・減災力向上の担い手として「防災士」の存在は欠かせないものとなっているため、本企画を実施して、地域防災・減災に貢献することを目標とする。

2 (1) 活動内容

災害ボランティア

2021年、広島では7月と8月に豪雨災害が発生し、広島県の住棟は、床下浸水123件、床上浸水77件の被害を被った[4]。この被害に対し、大学と広島市佐伯区社会福祉協議会が連携を取り、2021年10月2日と同年10月3日の二日にわたり、学生を集め豪雨災害の被害にあった地区の家屋で土砂の撤去、荷の運び出しをボランティアといった形で実施した。活動を通じて「1人だと何日もかかる作業がわずか半日で終わらせることができ助かった」と感謝の言葉を頂き、地域社会の中で若い力が必要とされていることを実感した。



災害ボランティアの様子①



災害ボランティアの様子②

2 (2) 活動内容

三者協議会

災害ボランティア後、地域で防災・減災活動に取り組む『河内地区自主防災会連合会』、『広島市佐伯区社会福祉協議会』及び『大学防災士会』で連携し、大学・行政・住民が共に地域防災・減災に役立つ取り組みを探るための三者協議会を行った。そこで防災士会は大学での学びを活かし、広島工大らしさを持った活動を行うと方針を決めた。



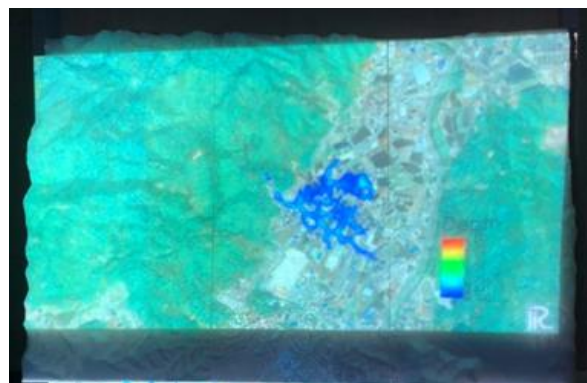
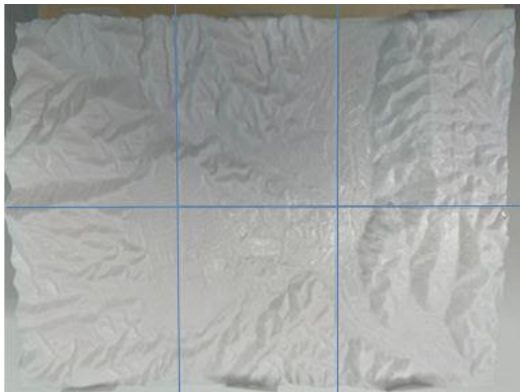
三者協議会の様子

2 (3) 活動内容

3Dハザードマップと土砂シミュレーション解析を活用した防災啓発

広島県は地形的に全国一位の土砂災害地域である。平成28年豪雨災害や平成31年西日本豪雨などにおいても多くの被害が報告されている。

三者協議会では、『河内地区自主防災会連合会』における、地域防災・減災に役立つ取り組みを探った。その中で、広島工大で出来る独自の取り組みとして、3Dハザードマップのプロジェクトンマッピングに取り掛かった。地域の地形の模型を3Dプリンタで作成し、そこに土石流のシミュレーションの映像を映すことで、地域住民の方に災害時の危険個所を分かりやすく伝えられるようになる。



3 今後の活動予定

今後災害が発生した際にはボランティアに積極的に参加し、実践的なスキルの向上を図る
プロジェクションマッピングのシステムを完成させ、佐伯区河内地区において、本システムを用いた災害に対する防災啓発・危機意識の向上や避難計画への利活用を図る。

4 まとめ・反省等

災害ボランティア活動を行い、地域貢献及び実践的なスキルアップを図った。
三者協議会では現地住民の方の声を聞き、学生防災士団体方針。及び活動について決定した。
プロジェクションマッピングでは 3D モデルの作成及び、シミュレーションの作成が出来た。